

平成27年度第1回青梅市協働事業市民推進委員会議事録

平成27年5月13日

503会議室

午前10時～正午

出席委員7人・欠席委員3人

1 委嘱状交付

高橋部長より交付

2 部長あいさつ

お忙しい中、第1回目へ参加いただきありがとうございます。再任、新しい方それぞれの立場から積極的にご意見をいただきよりよい協働事業を進めていきたい。長期計画の中でまちづくりの基本として10本の柱がある中にみんな市民団体と行政の特性をいかした連携、協働のまちづくりを進めていき、市政を安定していくうえで重要なポイントだと思う。委員のみなさまのご協力をいただきまして、今後の協働のまちづくりをすすめるようあいさつとします。

3 自己紹介

自己紹介

4 委員長選出

川崎委員

5 職務代理者氏名

鈴木委員

6 報告事項

(1) 青梅市協働事業市民推進委員会について（資料1）

事務局より報告

委員：理解しておいたほうがいい部分はあるのか。

委員長：協働指針、協働ナビを一通り読んだほうがいい。

(2) 平成27年度市民提案協働事業応募状況について（資料2）

事務局より説明

7 協議事項

(1) 青梅市協働事業審査委員の選出について

川崎委員長、清水委員、高橋委員、神山委員

(2) 視察研修の実施について

事務局より説明

- ・10月頃を予定している。

委員長：希望の場所がある方は事務局へ、報告してください。

8 その他

委員：まず協働ナビを読むつもりである。

委員：市民等との協働事業一覧表をみて、協働事業がこういうものかと感じたので、委員の方も過去のものを見ていただきたい。

委員長：協働にはさまざまなスタイルがあるので幅が広い。

委員：協働事業は団体と行政どちらが負担するのか。

委員長：事業によって違う。市の予算のものもあるが、団体に負担を  
しているものもある。

委員：団体の推薦はどのようになっているのか。

事務局：青梅市協働事業市民推進委員会設置要綱第3項（2）項で規定している特定非営利活動法人、ボランティア団体、地縁団体の代表者から5人以内となっている中で、さまざまな区分や活動実績がある団体に依頼をしている。

委員長：市と事業を一緒に行うと信用される。

委員：市がタイアップしていると安心される。広報は市全体に周知され、場所の確保もしやすいため事業を企画しやすい。

委員：協働ナビに載っている提案シートは随時受付しているのか。

事務局：ボランティア・市民活動センターが間に入り随時行っている。

提案シートは市民提案協働事業が制度化させる前に行っていたものである。

委員長：市民団体の高齢化はどうか。

委員：今度、講習会を行うが、受講した方が入ってくればいい。

委員：今年度の市民提案協働事業の申請に2団体新規の団体が入っている。自治会は申請しにくいものなのか。

事務局：提案事業ではないが、梅郷のプラムボックスウィルス対策で菜の花を植えた事業などは、自治会との協働であるのでは。

委員長：ボランティア・市民活動センター昼間だけの開館のため、日曜、夜間も開館してほしい。ボランティア・市民活動センタ

一の環境の整備が必要では。